

平成 29 年 1 月 4 日

南の風 214

南部ミニバスケットボール連盟
会長 藤原 敬一

明けましておめでとうございます。

昨年は、読者の方からいろいろ感想をいただきありがとうございました。今年も皆様のご意見を伺いながら、自分の思いも入れて書いていきます。どうぞよろしくお願いします。

まず 2016 年 ウィンターカップ 女子 決勝 からです。

高校 3 冠（インターハイ、国体、ウィンターカップ）が掛かる、桜花学園と連覇の掛る岐阜女子との戦いでした。接戦の好ゲームとなりました。戦評風に書きます。

ゲーム前の見どころとしては、桜花 4 番のステファニー選手と岐阜女子 7 番のファトー選手のペイントでの 1 対 1 や、ガード & フォワード陣の 3P 及びドライブインが挙げられる。

第 1 Q は、桜花の 4 番ステファニー選手のドライブインの得点から始まる。ステファニー選手は緊張した様子も見せず、その後もゴール下の見事なステップワークで得点を重ねる。また 9 番山本選手は、2 本の 3P を見事に沈めた。一方の岐阜女子は、出だしは全員が緊張気味であった。5 番藤田選手のドライブインが決まるが、桜花のタイトなディフェンスにタフショットになる場面も見られた。時間の経過とともにディフェンスで流れを掴み、5 番藤田選手や 9 番玉置選手のドライブイン、またゴール下でディフェンスにハードにマークされたが、上手くかわして得点した 8 番ディヤサン選手の活躍で盛り返した。第 1 Q 終了時、24 対 15 桜花がリード。

第 2 Q は、岐阜女子が 1-4 のハイモーション気味のフォーメーションでスタートする。ワンガード（9 番玉置選手）に、2 人のセンターを両エルボー（右に 7 番ファトー選手、左に 10 番小野選手）に配置する。フォワード陣は、両ブロックの延長線上のスリーポイントラインの外という布陣（右が 5 番藤田選手、左が 4 番石井選手）。エントリーは、リングに向かって右のフォワードの 5 番藤田選手のボールミートから始まる。ガードの 9 番玉置選手はパスの後、UCLA カット（右エルボーのファトー選手に対して）する。ボールが来ないため、10 番小野選手のディフェンスはバックスクリーンを掛ける。ファトー選手は、ポップアウトしてボールを受ける。ガードの 9 番玉置選手は、もう一度トップに戻り、7 番ファトー選手からボールを受ける。ファトー選手はパス後、玉置選手のディフェンスにオンボールスクリーンを掛ける。玉置選手はスクリーンを利用してドライブするが、桜花のヘルプディフェンスの前にタフショットになってしまった。

このプレイの感想です。すばり言うと、形を追いすぎた感がありました。ボールに拘わらない選手（この場合 4 番の石井選手や、UCLA カットがあった時の 10 番小野選手、ファトー選手にパスした後の 5 番藤田選手）がフォーメーションとは関係なく、ボールをもらえる動きをしたら展開が変わっていたかもしれません。結局ガードの 9 番玉置選手が、相手のヘルプディフェンスに対してパスの出どころがなく、シュートを打たされてしまいました。惜しいプレイでした。

しかしこの後、岐阜女子は 5 番藤田選手の 3P、4 番石井選手のミドルシュートが決まる。シュートタイミングがよくなった岐阜が徐々に点差を詰める。

次号にします。